

座間市市民協働課
平成 25.4.18 受付
第 号

相互提案型協働事業実施報告書

2013年 4月 18日

(宛先) 座間市長

団体 住所 座間市入谷 4-3011-18
座間ハイツ 3-506
名称 ひらけ ごま

代表者氏名 青柳 富士子 

市 担当課 障がい福祉課

所属長 土屋 寿 

次のとおり報告します。

1 事業名	精神障害者(当事者)の生きづらさの対処法 事業 「べてるの当事者研究」
2 事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市 提案協働事業
3 選考年度	²³ / ₂₄ 年度選考 (24 年度実施)
4 報告期間	24 年 4 月 1 日 から 25 年 3 月 31 日 まで
5 事業費	161,624円 (内座間市支出分 161,624円)
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	<p>精神障害者(当事者)の生きづらさの対処法 事業を開催しました。</p> <p>精神障害を抱えて生きていると、様々な生きづらさが起きて当事者は自分の助け方で苦労しています。</p> <p>この事業は、「べてるの当事者研究」の方法で、精神障害者が家族、関係団体とともに生きづらさの助け方を一緒に考え、病気の理解や自分に合った対処方法を生活の中に活かしていけるように会場で参加者と共有しました。</p> <p>「べてるの当事者研究」は、北海道浦河町のべてるの家と浦河日赤病院精神科で始まった当事者やその家族を対象としたアセスメントとリハビリテーションのプログラムです。「自分の助け方(自助)」に焦点を当てて、より良い自助ができるように、主体的に考え実践していく方法です。</p>
7 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	精神障害者(当事者)の生きづらさの対処法 事業 「べてるの当事者研究」
-----	--

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。	
	各回とも定員を上回り、自分に合った対処法で生きづらさを減らせることを多くの市民に知ってもらえたので達成できた	予定どおり2回のセミナーを実施したが、2回とも好評を得、取組みの周知及び所期の目的はほとんど達成できた。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者自身の体験を聴くことにより精神疾患の生きづらさを共有できた ・パネラーの実践している対処法が参考になった ・医者まかせだけでなく当事者自身が困っていることを客観的にとらえ、対処法を編み出すことで問題解決に繋がることを知ってもらえた ・家族や地域の方にも当事者の生きづらさの理解と対処法があれば生きづらさを減らすことができることを知ってもらえた 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健分野での有効な対処療法のひとつを普及・啓発できた。 ・当事者自身から体験したことや悩んでいることを聴くことにより多くの市民の理解が深まったと考える。 ・生きづらさの対処法の共有ができた。

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	
	初回協議で目的の共有は難しいと思われたが、その後の話し合いで、互いに歩み寄り目的や課題に対する共通の認識を持てた	十分な協議はできなかったが、話し合いのなかで共通の認識ができた。

事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	情報交換の機会はなかったが、お互いの事務連絡は、その都度連絡を取り合い確認と見直しを行えた。一部周知されなかったこともあった	団体の事業の予定に基づいて実施したので情報交換は少なかった。 第2回目のセミナーは当課の事業の関係で、開催日程を変更してもらったが、2回開催のセミナーの日程の組み方で情報交換は少なかったが、問題なかった。
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	最初は一緒にやっていけるか不安だったが対等な立場で協議することができた	できた。
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	組織の特性を考え、役割分担できた	できた。

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果すことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	(団体の役割) ・当日の企画、チラシ・ポスター作成 ・関係団体へのチラシ配布 ・当日の運営(準備・片付け) ・講師・パネラーの手配等 ・受講者の募集受付 ・アンケート集計 ・機材レンタル(社協にてアンブレタル)	(市の役割) ・会議室予約 ・広報記事掲載 ・団体から頂いたチラシの出先機関等配布 ・受講者申込受付 ・当日資料準備 ・当日会場準備、片付け

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適正さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	協働事業の申請の際に団体がきめた役割分担だったので不安はあったが適正だったと思う	妥当であった。
実施結果	設定した役割分担を果すことができましたか。	
	役割分担を果たすことができた	役割分担を果たすことができた。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・開催当日には沢山の職員の協力があり、団体単独では出来ないスムーズな運営ができました ・行政の信頼性と公共施設の利用で、多くの参加者につながった ・公共施設にチラシを置くことができて市民への情報発信ができた ・申込み窓口が二か所で参加受付がスムーズだった ・多くの参加者があり啓発という事業の目的を達成できた 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の一担当課としては規定された事務事業を実施することが日常業務の中心となってしまうので、協働により通常業務にない新たな取り組みを行うことができた。

4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	(団体の考え) <ul style="list-style-type: none"> ・小規模で定期的な開催 べてるの当事者研究は継続して課題を解決してゆく過程での気づきや仲間との連携が大切なので定期的な開催が望ましいと思う 	(市の考え) <ul style="list-style-type: none"> ・2回の開催で両方とも予定人数を上回る盛況ぶりであった。 ・アンケート結果からも役に立ったという意見がほとんどであった。 ・今後機会をとらえて開催を検討したい。